かさおか

発行所
天理教笠岡大教会
かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)
電話 66−1311
FAX 66−1314

久松分教会神殿

(11月6日 撮影)

さあ！おたすけ　祈る 動く つなぐ

おたすけ・お願いカード　集計：８１，２４２枚
平成２７年９月２１日～１０月２０日
累計：１，３６５，４７５枚

一万人のおぢばがえり　集計：７２５人
累計：６，４８２人
平成２７年　１月１日～１０月２０日

立教178年
11月号

秋季大祭講話

世界たすける真実の心

大教会長様　お話

立教178年笠岡大教会秋季大祭は10月21日、大教会長様祭主のもと、役員・教会長・よふぼく・信者、多数参拝の中、執り行われた。大教会長様は神殿講話で、先ず、立教の元一日の善兵衛様の心境を推察される中から、親神様の「世界たすけ」と人間の「たすかり」との隔たりに触れられ、畳み掛けるように自問自答されるがごとく、順を追って、年祭の旬にあるべき道の信仰者としての姿勢を正された。要旨は次の通り。

●「たすかり」と「たすけ」の違い

立教の元一日、「みきを神のやしろに貰い受けたい。」という一言を受け、中山みき様のお立場からすれば、なかなかお受けすることはできませんでしたが、三日三晩の押し問答の末、天保9年10月26日朝8時頃、夫・善兵衛様が「みきを差し上げます」と応えられてこの道が始まりました。

お受けする中にも、当然、困惑や不安が殆どだったでしょうが、「世界一れつをたすけるために天降った。」というお言葉ですから、その一方で、「神様にみきを差し上げたら自由に働かれ、世界一れつをたすけてくださる。この世から病気・災難や戦争がなくなって、本当に陽気ぐらしの世界に立て替えてくださる。有り難い神様だ。」、ひょっとしたら、そういう淡い期待もあったのではないかと推察されます。

しかし、実際には、困っていた方々に次々と食べ物や物を与えられる、田地田畑を売ったり貸し出して、それも人に施す、また、母屋を残してすべての建ち物も潰してしまうようなことをされ、貧に落ち切るという状況になった。

夫・善兵衛様にしてみれば、「ちょっと待ってくれ。『世界一れつたすける』と言うたやないか。」、どちらかというと、「これはどう考えてもおかしい。裏切られた。これは世界一れつをたすけるような所業ではない。気が違ったか、キツネが憑いたか。」と思われたのも当然でしょう。

今、考えれば、よく分かりますが、それ（貧に落ち切る）にも、親神様の世界だすけの意味がありました。

私たちは、「たすかり」というと、病気や災難がなくなり、生活が結構になり、戦争や紛争がなくなって世界が平和になるということで、それが、陽気ぐらしの世界だと思います。

しかし、この、「私たちのたすかり」と、親神様の「世界だすけ」との違いを、先ず最初に、私たちに示さなければならなかったのではないでしょうか。

●「人間の心通り」に守護される世界

その一端として、「水を飲めば水の味がする。」と、どんな中でも心一つの理によって、私たちは幸せになれる、喜べること――かしもの・かりものということを教えられました。

めへくのみのうちよりのかりものを
しらずにいてハなにもわからん　三137

と教えられるように、先ず、かしもの・かりものということを心に修めることが大切だということから、「貧に落ち切る」という姿になった。――助けてやりたいとの思いから、当時、困っている人に物を施されたのも確かですが、もう一つには、かしもの・かりものを分からすためにということが言えるのではないでしょうか。

改めて、このかしもの・かりものということを思案したときに、私たちは、心一つ。――心一つが我がの理であり、私たちの身体を始め、この世は親神様のご守護の世界であって、心一つの理によって、親神様が自由に働かれて、こうして結構に生かされていると教えられ、親神様のご守護の世界だから、私たちにとっては、確かに、親神様のご守護を感じ、喜び、しっかりと親神様に御礼申し上げ、御恩報じの道を悟って、しっかりとその道を歩むことが大切だと、親々からも聞いています。

しかし、それを神様は望まれたのかどうか、それを分からすためにかしもの・かりものを仰ったのかどうか。

むしろ、我がの理である心一つの理に、神が自由のご守護を与えられる。つまり、親神様のご守護の世界ではあるが、神の心通りの守護の世界ではなく、すべて、私たち、可愛い一れつ子供の心通りに守護される世界である。――ということを知らしたかったのが、このかしもの・かりものということではないでしょうか。

お互いに、一生懸命、信仰していて

も、身上・事情が起こり、相変わらず、紛争が絶えない現状ですから、どういうことかと思いますが、改めて、そういうことを考えてみて、私たちの歩むべき信仰の道筋は、ただ単に親神様に凭れてお願いして通ればよいというのではない。私たちの心がしっかりと親神様のお心に適わなければ、親神様はたすけようもなければ、この世界を治めていくわけにもいかない。私たちの暮らしが良くなるのも世界が治まってくるのも、すべて、私たち一人ひとりの心次第の理にあるということです。

そして、これは残念ながら、たった一人の心ではありません。「すべての人」の心通りの世界です。

我が身に起きる身上・事情は、確かに、自分自身で反省し、親神様にお詫びを申し上げ、理作りして願ったなら、ご守護をいただく一つの道筋はありましょうが、世界的に起こる事柄――かみなりやぢしん・をふがぜ・水つきは、世界中の人間が、心を変えていかなければ、治まらないということに外なりません。

私たちが、年祭のこの旬に、一体、何をすべきか、親神様の「世界一れつをたすけたい」というその「たすけ」は一体どこにあり、どうすれば親神様の「世界だすけ」に繋がってくるのかということを、改めて、共々にしっかりと思案すべきです。

●「しんぢつに人をたすける心」

ほこりとなる心遣いが故にいんねんがあり、身上・事情に苦しむべき一つの理がある。その中に少しでも、我が身の身上・事情をご守護いただき、世の中が良くなるための私たちの心遣いとして「人をたすける心」が大切だと教えられます。

しんぢつに人をたすける心なら
神のくときハなにもないぞや　三32

しんぢつにたすけ一ぢよの心なら
なにゆハいでもしかとうけとる　三38

正しく私たち一人ひとりが、自分のたすかりを願うだけではなく、しっかりと人のたすかりを願い、自分ができる人だすけの御用をつとめる。その理が、また、一人でも多くの人に伝わって、そして、世界中の一人ひとりが、我が身ではなく人のたすかりのために、しっかりと信仰の道を歩むという一つの姿になっていく。ここに、たすけの道があるのではないでしょうか。

先の「人をたすける心」の大切な2首のお歌の直ぐ後に、

めへくにいまさいよくばよき事と
をもふ心ハみなちがうでな　三33

口さきのついしよはかりハいらんもの
しんの心にまことあるなら　三39

というお言葉がありますが、代を重ねて、この大切な部分が忘れられているのではないでしょうか。

改めて思案すると、

めへくにいまさいよくばよき事と
をもふ心ハみなちがうでな　三33

私たちは、一生懸命、お願いづとめし、おさづけを取り次ぎますが、「今、この身上・事情さえ良くなれば」というたすけにしかなっていないとするなら、「いまさいよくばよき事と」、それは「ちがうで」と仰る。

それは、どういうことかと言えば、先人がよく言われた「いんねん」ということ。

口さきのついしよはかりハいらんもの
しんの心にまことあるなら　三39

ただ単に、神様にお願いするだけではなく、やはり、今の身上だけではなく、この人のいんねんさえもたすけてやりたいという心が「しんの心にまことあるなら」ばということではないでしょうか。

今の時代、おたすけする上で、なかなか、いんねんについて話しにくいのは確かですが、先人には、いんねんもたすけていくという思いがあったでしょう。私たちは、そのいんねんさえもたすけていくという思いが果たしてあるのかどうか。

お道のおたすけは、単なる身上・事情だすけではありません。身上・事情が治まったらたすかったではなく、その身上・事情を通して、むしろ、そこからが本当の関わり、本当のいんねん納消のためのたすけが始まります。その人・家族のいんねんそのものをたすけていくという通り方・たすけ方に、お道本来のたすけがあるのではないでしょうか。

身上・事情をご守護いただこうと声を掛けたところから、一生掛けて関わりを持ち、徐々にいんねん納消へと導いてこそ、「しんぢつに人をたすける心」になるのではないでしょうか。

●「価を以て実を買うのやで」

さあ、「しんぢつに人をたすける心」とは、一体、どういうことでしょうか。また、どうやってたすけていけばいい

のでしょうか。

たすけでもをかみきとふでいくてなし
うかがいたてゝいくでなけれど　三45

神様にお願いするだけ、また、おつとめさえすればよいのでしょうか。おつとめも「をかみきとふ」ではありません。お手を振り、鳴り物を叩きさえすれば神様が働いてくれるというのとは、意味が違う。

やはり、心一つの理で、しっかりとおつとめをすることが大切です。何とか「をかみきとふ」にならないように、正しく、たすけの元立てとなるように、今は、一生懸命、「おたすけ・お願いカード」を書いて、それを供え、しっかりとたすけ心でもってつとめるからこそ、たすけの元立てになるのです。

しかしながら、それだけで良かったでしょうか。改めて思案したときに、明治20年、教祖が御身をお隠しになされるときに、いろいろと問答がありました。

教祖がいよいよ具合が悪くなって、もう息も止ろうかというとき、

さあという差迫った時には、我々の心通り確りと踏ん張って下さいましようか。と、念を押した。

これに対し、

さあ〳〵実があれば実があるで。実と言えば知ろまい。真実というは火、水、風。

人に真実の心があれば、親神の真実の守護がある。いよ〳〵という時は、親神が引き受ける。この世界の火、水、風は皆、親神の心のまゝに司る処である。

と、鮮やかに引き受けられた。

尚も押しての願に対し、

さあ〳〵実を買うのやで。価を以て実を買うのやで。

真実を以て買うならば、真実の守護を見せてやろう、親神の自由自在の守護を頂くには、皆々が真心の限りを尽して事に当るのが肝腎である、と、教えられた。

（伝十章）

と、教祖伝に記されています。

真実に人をたすけたいという心になったときには、神様にお願いするだけではなく、たすけるための理作り、「価を以て実を買う」ことが大切だと、ここには教えられています。

それと合わせてよくよく心に修めるべきは、「人をたすける心なら」というお言葉です。

単に神様にたすけを願うだけではなく、自ら「たすける」という心です。しかし、私にはたすけるだけの力も何もないので、親神様・教祖にお働きいただくしかない。でも、「をかみきとふ」ではない。これでは、親神様・教祖、どうして働いていただけるのか。

たすけたいという思いはあっても真実がない。では、「しんぢつに人をたすける心なら」――「価を以て実を買うのやで。」――どうやったら実を買えるのでしょうか。――それは、御供・ひのきしん・おぢばがえり・にをいがけ…ではないでしょうか。

大事なことは、願えば神が働くのとは違うということです。

確かに、自分のたすけを願えばたすけられる理はありましょうが、この年祭の旬は、自分のたすかりよりも、しっかりと人のたすかりを願う、その心を遣い、その歩みを進めると同時に、たすけるために何をすべきか、――正しく、これは、しっかりと理作り――「価を以て実を買う」しかないということです。これは、先人が通られた道筋ではなかったのか。

ただ単にたすかるために理立てをしご守護をいただく、たすかるための理立ても確かにあります。それも受け取ってくれます。しかしながら、やはり、人さんにたすかってもらうためにも、やはり、理作りは必要だということは、先人たちは、皆、分かっていたのでしょう。

だから、たすかった後も、御恩報じとして、一生懸命、人だすけをすると同時に、たすかってもらうために理作りに励んだ。――親々が、一生懸命、お道を通ってくれ、人をたすけるために、今日、入ったお金さえも上級へ運んでいる姿を見た。たまには楽をしてほしいと持っていったら、それを、そのまま、またおぢばに運ばれたという話しをよく聞きます。――それは何だったのでしょうか。御恩報じに掛かっているということは、もうたすかっていますから、たすかるための御供なら必要なかった。――やはり、何でも人をたすけたいという思いが強いからこそ、運ばずにはおれなかったのではないでしょうか。

ひのきしんにしてもそうです。

昭和29年、おやさとやかたのふしんの発表があり、世界中から多くの人が、

おぢばでひのきしんに汗を流しました。それは、何のためのひのきしんだったのでしょうか。単にかしもの・かりものの御礼のひのきしんだったのでしょうか。そうではなかったはずです。

――「おぢばからひのきしんのお言葉をいただいた。しかも、おぢば・おやさと直々にひのきしんに伏せ込むことができる。ああ、有難い。この人もたすかってもらおう。」――正しく、人にたすかってもらうための伏せ込み、たすけの理作りとしての喜び一杯のひのきしんではなかったでしょうか。

その喜びをこどもにも味わわしてやりたいといって始まったのがこどもおぢばがえりです。

今は、帰ってくる子に「喜ばさずには帰されん」ということで、おたのしみ行事をいっぱい用意されていますが、本当の目的を考えてみれば、正しく、土持ちひのきしん、しこみ・ふせこみ行事です。

「このお楽しみ行事が良かった。」で帰らしたのでは、もったいないのです。是非とも、しこみ・ふせこみ行事に参加し、こどもたちと一緒にもっこを担うてひのきしん、「こうしてひのきしんしてくれたら、神様が喜ばれて、あんたの回りの困っている人をたすけられる。有難いな。」と言ってやってほしいのです。たすけること、ご守護いただくことの喜びを、しっかりと伝えることが、本当は、「喜ばさずには帰されん」ということの一つの意味ではないでしょうか。

手が足らないからと、子どもに学校を休まして、おつとめをさせているところもありましょう。子どもは学校に行きたいかも知れません。でも、無事につとめ終えたら、やはり、子どもには言ってやってほしい。「今日も、おつとめをつとめてくれたので、この人をたすけていただける。神様が働いてくださる。有難かった。良かったな。」と。たすける喜び、親神様・教祖にお働きいただく喜びを、しっかりと伝えることが大切でしょう。

かしもの・かりもの、心一つが我がの理。その心一つの理を、たすけ一条の真実の心になって、初めて、親神様・教祖は、真実を受け取られ、身上・事情を治められ、争いをなくされ、陽気ぐらしへと導かれます。

今、正しく、教祖の年祭。この旬は、たすかってもらうために、お願いするだけではなく、しっかりとたすかってもらうため、たすけるための理作りに励む旬に外なりません。

●末代のたすけに繋がるおぢばがえり

10月25日、別席・ひのきしん団参。さあ、たすかってもらいましょう。末代のたすけに繋げましょう。

身上・事情をたすけるだけなら、その人の上に、足を運び、おさづけ取り次いでご守護をいただければ結構でしょう。でも、末代のたすけにするためには、おぢばに連れ帰り、先ず、おぢばでをやの息を掛けていただく。単なる身上・事情だすけに留まらず、いんねんだすけするための第一歩は、おぢばがえり。

諸事情から実際に帰っていただけなくても、たすけ心が働いているからこそのお誘いのにをいがけ・声掛けですから、そのお誘いのたった一言さえも、立派な理作りです。その心、理作りは理作りとして、神様が、必ず受け取ってくださいます。

10月25日がだめなら、1月26日。毎年、おぢばがえりする機会は如何様にもあります。一人でも多く、おぢばに帰ってもらえるように声を掛ける、その一言ひとことが、理作りになるのです。共々に、一人でも多くおぢばへと誘い、理作りして、教祖の年祭を迎えようではありませんか。

●年祭に向けての大切な理作り

もう一点。

正しく、たすけの先頭に立って、まして、先回りして働かれているのが教祖です。

たすかってもらうため、教祖に、何でもどうでもお働きいただくためには、しっかりと、教祖の年祭に理立て（御供）する、理作りすることが大切でしょう。

年祭の旬は、とにかく、しっかりと悔いのない理作りをしてこそ、年祭の大きな意味があり、また、親神様・教祖が十分に働かれる元立てになることでしょう。

立派なことはできなくても、心一つの理は如何様にも受け取っていただきますので、どうぞ、親神様に受け取っていただけるような心遣いの理でもって、共々に、年祭に向かって、たすけ一条の道、しっかりと歩みましょう。

《以上、要旨》

有志ひのきしん隊 実施

青年会

青年会笠岡分会（上原明勇委員長）が、各教会からの要請を受けて毎月出動している「有志ひのきしん隊」。

分会の年祭活動の一環として始めたこの活動も、まもなく3年となる。

10月14日には、呰部分教会に4人で出動し、教会敷地内の除草を手際よく行った。また同月16日には7人が参加し、まず旧福冨士分教会の敷地内の草刈り・整備。続いて福冨士分教会へ移動し、プレハブ小屋の解体を行った。2時間程の作業で、17年間教会裏の敷地をふさいできたプレハブ小屋を、すっきりと片付けることができた。

写真はいずれも福冨士分教会

「別席・ひのきしん団参」実施

10月25日 約1千300人帰参

布教部

布教部（田中隆之部長）は10月25日「別席・ひのきしん団参」を実施、約1千300人（初席・19人、中席・55人、満席・4人、布教部調べ）が帰参した。

「別席場をいっぱいに」という全教挙げての動きのなか、眞明組（芦津大教会）に繋る笠岡・西宮・池田・双名島・玉島の6大教会が合同で行ったもの。

午前11時15分から東礼拝場で拍子木を入れてのおつとめがつとめられ、引き続き、本部駐車場で除草などのひのきしんを行った。

その後、会場を詰所に移し、午後2時から北棟3階講堂で「心に溢れるものが伝わる」をテーマに藤田文雄先生（夕張大教会長）の記念講演が約1時間あった。また、16時より、同じく北棟3階講堂で各ブロックから出された模擬店（和菓子セット、缶詰各種、おでん、焼き鳥、珍味、あご竹輪等）も行われた（左の写真）。

提灯の前でひのきしんに勤しむ参加者たち

東礼拝場前には各大教会の幟が並んだ

300有余名の聴衆を前に話される藤田文雄先生

第91回総会 開催

10・27 於 本部中庭

青年会

10月27日、秋晴れの中、本部中庭にて第91回青年会総会が開催された。青年会長である中山大亮様は告辞の中で、「最後まで真実を尽くし、あらきとうりようらしく、勇んでにをいがけ・おたすけに努めきらせていただこう」とさらなる布教実働を促された。また真柱様はお言葉の中で「教祖の教えを伝えることに喜びと誇りを持って、青年会の活動に励んでいただきたい」、「年祭までの三ヶ月をあらきとうりようらしい情熱で、一手一つに勇んで邁進してくれるよう」とお話下された。

笠岡分会の参加者は式典後、一年のお礼と告辞・お言葉を受けての決意を込め、おつとめをつとめた。その後、詰所での会食では、成人を誓い合い、交流を深めた。

笠岡分会青年会員

弥高山分教会で七代会長就任奉告祭 執行

10月18日(日)、弥高山分教会では七代会長就任奉告祭が大教会長様ご夫妻・随行員、来賓三名をはじめとし、おつとめ奉仕者・参拝者およそ七十人の中賑やかに執り行われた。

当日は晴天の秋空に包まれ、早朝から殿内準備は進められ青年会員による駐車誘導や信者たちの祭儀式・鳴り物練習にと慌ただしくも徐々に参拝場は埋め尽くされていった。午前十時から臨時祭典は始まり、祭儀式の中で大教会長様は、「教会設立に当たり願い出られた当時の人達の思いに立ち返り、今日がおたすけの始まりの日としてたすけ一条につとめて頂きたい。」と一同に挨拶され、その後賑やかに座りづとめ・十二下りがつとめられた。副祭主である当該会長は参拝者に向け、「手探り状態で今日の日を迎えられたのも皆様方のお蔭であり、これからは教会また地域の上に貢献してゆきたい。」と挨拶された。その後、記念撮影があり会食の席ではカラオケ・ビンゴ―ゲームと奉告祭は無事終了した。

地区の祭りで演奏

高屋分・雅楽部

高屋分教会雅楽部(猪原啓文楽長)は10月18日、福山市新市町で開催された「戸手学区ふれあい祭り」に出演、管弦・平調『越殿楽』、『蘭陵王』を演奏。会場を訪れた多くの人たちは、雅やかな楽の音を楽しんだ。

この祭りは、地域の連帯感を深め心

豊かなふれあいあるまちづくりを目指すため行われているもので、今年で28回目。

会場の戸手小学校グランドに設けられたステージでは和太鼓、ダンス、地元中学校吹奏楽部の演奏などが披露され、またもちつき大会やうどん、ラーメン、焼き鳥などのテントバザーも開かれ、毎回、約2千人の人たちが参加し賑わっている。

雅やかな楽の音が会場内に広がった

秋季大祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます
親神天理王命の御前に　会長上原理一慎んで申し上げます

親神様には一列子供の陽気ぐらしを楽しみにこの世と人間をお創造め下され十全の御守護で以てお育て下さっております　しかるに生まれ替わり出替わりする度に心の使い方を誤り　陽気ぐらしとかけ離れて行く様を御覧になるや「月日にハせかいぢうゝハみなわが子　たすけたいとの心ばかりで」と天保九年十月二十六日　教祖を月日のやしろとお定めになり　元の理を明かし陽気ぐらしへ向かう「ひながた」をお示し下されたばかりでなく　身上・事情を通して次々と人をお引き寄せ下さいまして世界だすけの道をお付け下さいました事は誠に勿体なく有難い極みでございます

私共はお聞かせ頂く真実に我が心を照らし合わせ　いんねん納消の上から　日々は朝夕に御礼申し上げると共にたすけ一条の御用の上に精一杯努め励ませて頂いております

その中にも今日の吉日は　おぢばで立教の元一日を記念してつとめられる秋の大祭の理のお許しを戴いた日に当たりますので　只今からおつとめ奉仕人一同　立教の元一日に込められた親心に思いを致し　喜び心も一入に明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりをつとめて秋の大祭を執り行わせて頂きます　御前には　稔りの秋の感謝の心一杯に今日の日を楽しみに寄り集いました道の子供達が　日頃の御高恩に改めて御礼申し上げつつ八万一千二百四十二枚のおたすけお願いカードにたすけ心を込めて相共にお歌を唱和する皆の真実の状を御覧下さいまして　親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます。

さて今月は大祭月に当たり直轄教会へ秋季大祭参拝をさせて頂き　目前に迫りました眞明組による別席ひのきしん団参に笠岡から二千名帰参の目標達成を誓い合わせて頂きました　重ねて来年一月二十六日の教祖百三十年祭に向けて今世限りのたすかりではなく末代にかけてのたすけを願って　一人でも多くの人におぢばがえりを勧めて行く事も誓わせて頂きました　更には　世界だすけの先頭に立ちお働き下さる教祖に更なるたすけの実を御守護頂けるよう　年祭により一層の真実の理立てをさせて頂く事も申し合わせて頂きました

何卒親神様には　教祖年祭活動仕上げの年に当たり　いつも以上にたすけ心を持って親孝心一筋にたすけ一条の御用に励む皆の誠真実の心をお受け取り下さいまして　万たすけの上に尚も自由の御守護を賜り　真実の親心に触れ　たすかりたいからたすけたいとの御恩報じの心に立て替わる人が弥増して　年頭の心定め完遂とおつとめ奉仕人増員の御守護を賜り　お望み下さる陽気づくめの世の状に一日も早くお連れ通り下さいますよう　一同と共に慎んでお願い申し上げます

立教百七十八年 秋季大祭 祭典役割表

祭主	扈者		講話
大教会長様	中村邦義	中村剛	大教会長様

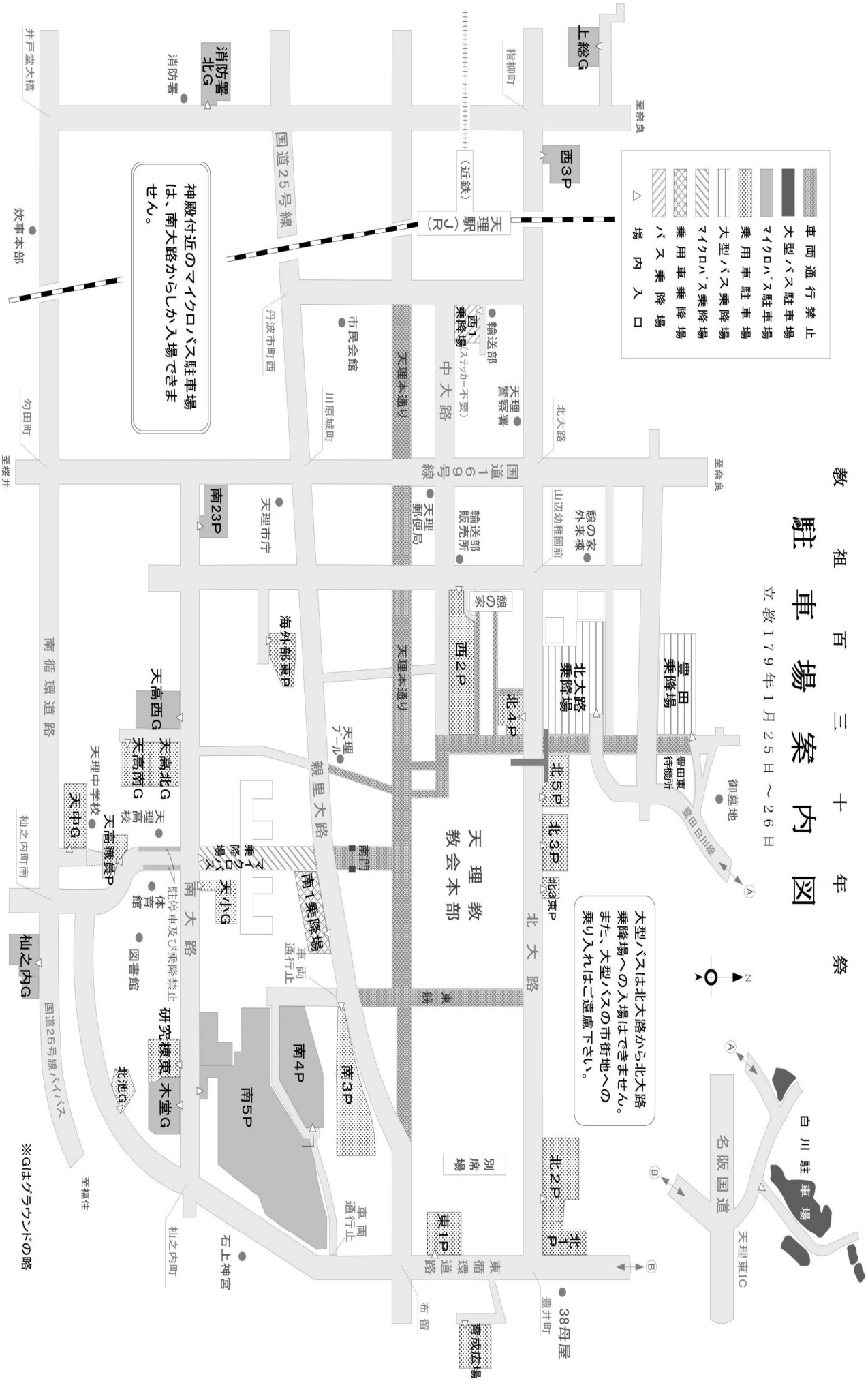
指図方	賛者		十二月講話
高木昭祥	横山逸郎	佐藤道孝	上原繁道

役割／区分	地方			おつとめをどり									笛	ちゃんぽん	拍子木	太鼓	すりがね	小鼓	琴	三味線	胡弓
坐り勤	佐藤道孝	田中隆之	横山逸郎	大教会長様	上原繁道	吉岡壽	大教会奥様	田中ますみ	門脇郁子	高木昭祥	笹尾正治	谷内伸自	杉原博之	森本忠平	岡崎真一	虫明好美	今川佐智子	佐藤香苗
前半	中村邦義	上原志郎	山野弘実	上原繁道	中島誠治	三島涉	上原順子	森本冨美子	谷内美知子	上原浩	山田敏教	武内清明	吉岡誠一郎	森本忠善	赤木素志	武内正美	三島照美	岡崎豊子
後半	中村剛	今川昌彦	虫明立生	中村邦義	門脇元教	中村道徳	門脇加津	横山小智榮	中村初美	淺野明教	上原繁次	田林久嗣	佐藤真孝	岡崎真一	内海史郎	内海安子	高木孝子	岡崎和美

教祖130年祭 駐車ステッカーについて

「教祖百三十年祭 大型バス、マイクロバス ステッカー申込書」が、インターネットの天理教サイトからダウンロードできます。インターネットから申し込むこともできます。

①検索サイトを開き、「130年祭 ステッカー」で検索すると、下図のようなページが開きます。
②「駐車ステッカー」の字が見えるサイトをクリックすると
「http://www.tenrikyo.or.jp/yoboku/oyasama130nensai/」が開きます。
③「交通」の字をクリックすると
「http://www.tenrikyo.or.jp/yoboku/oyasama130nensai/#koutsu」が開きます。
④画面下部に、「ステッカー申し込みのご案内（駐車場案内図付き）」・「ステッカーお申し込みにおいてのお願い」等のリンクがありますので、クリックして詳細をご確認ください。


教祖百三十年祭
駐車場案内図
立教179年1月25日～26日
車両通行禁止
大型バス駐車場
マイクロバス駐車場
乗用車駐車場
大型バス乗降場
マイクロバス乗降場
乗用車乗降場
バス乗降場
場内入口
大型バスは北大路から北大路乗降場への入場はできません。
また、大型バスの市街地への乗り入れはご遠慮下さい。
神殿付近のマイクロバス駐車場は、南大路からしか入場できません。
路上での乗降や駐車等、他の車両の迷惑になる行為は、止めて下さい。
※Gはグラウンドの略
天理教教会本部
北大路
南大路
南循環道路
親里大路
天理本通り
中大路
国道169号線
国道25号線
国道25号線バイパス
名阪国道
天理東IC
白川駐車場
豊田乗降場
北大路乗降場
北2P
北3P
北4P
北5P
西2P
西3P
南1乗降場
南2P
南3P
南4P
南5P
南23P
東1P
東2P
東3P
消防署北G
上総G
天理駅（JR）
天理駅（近鉄）
天理市庁
天理郵便局
輸送部販売所
輸送部
天理警察署
市民会館
天理プール
天理高西G
天高北G
天高南G
天理高校
天理中学校
天中G
天高職員P
体育館
図書館
研究棟東
木堂G
北池G
仙之内G
石上神宮
海外部東P
天小G
乗降場
別席場
東飾
憩の家
憩の家外来棟
山辺幼稚園前
豊田東待機所
御墓地
豊田白川線
至奈良
至桜井
至福住
指柳町
丹波市町西
川原城町
勾田町
井戸堂大橋
炊事本部
消防署
仙之内町南
仙之内町
布留
豊井町
東循環道路
豊成広場
38母屋

こころの詩

笠岡の教友が選ばれ掲載されていましたので転載いたします。（敬称略）

▼『陽気』誌11月号「道柳」より転載。

▽秀　詠

・東悠㊐　田林美智子さん

大祭の提燈（あかり）の中に偲ぶ道

▼表紙写真

（吉岡輝昭かさおか編集部員）

大教会だより

◎教人資格講習会修了者

前期　立教178年10月31日終講

稲倉　北川　和成

全期　立教178年11月10日終講

久松　中村　京子

引野　猪原　瑛梨

八尋　矢田　一旨

◎別席・ひのきしん団参ひのきしん

興明　吉岡　八恵

呰部　常井　二三代

呰部　常井　彩未

福芦　藤原　徳美

福芦　藤原　鈴江

福満　福島　時子

稲倉　藤井　宏一

稲倉　田中　久雄

米府　見生　美由紀

西伯　本多　孝二

大江橋　村川　清治

鶴眞　頼経　知加

鶴眞　頼経　萌

甲井　山田　敏教

甲井　山田　信子

よりみち

じぇ・じぇ・じぇ、つづいてやっぱり順番来ちゃいました！ 締め切りすぎました・・・どうしよう・どうしよう・どうしよう？ 最近あった事、思ったこと、感じたこと、・・・どうしょう？ あっ、まねしちゃえ〔すいません盗作しました（K・T）様〕

一年は速いもので、あと二ヶ月少々で、教祖百三十年祭を迎えることができます。この三年千日は、いろいろな出来事をお見せ項いています。

私の弟がガンの告知を昨年十月二十一日受けてより、事々始まりました。

普段からあまり会うこともなく、あまり電話をすることもなく、年に一～三回話をする位でした。偶然にも二十一日、信者さんとの話のなかで『この間病院で弟さんを見かけたで』と言われましたが、その時は、あまり気にもかけることなく聞き流しする程度でした。夕方になるにつれ、どうも気がかりになり『どこが いけんのんよ』と電話をすると、一言『黙っとこうとおもっとたんじゃけど』と、なにやら元気のない声で『いけんのんじゃ』の一言からはじまりました。数時間前に、病院で、あなたの病状はステージ四の段階ですと言われたそうです。後日、弟の話を聞くと、当人は軽く考えていたそうで、聞いたとたんに手・足が振るえ、意識が次第になくなったそうです。

そんな車での帰りの中のことでした。すぐさま、姉二人に連絡。又近くの信者さんにお願いし、二十一日朝から二十四日の夕方までお勤め後に、お願い勤めをさせて頂きました。二十五日は大祭に行かせてもらうことができました。

あれから一年。入院することなくリンパへあつたガンは見えなくなり、あと、肺のガンは、小さいものが幾つもあったものがひとつになり、小さくなっているそうです。弟も今では元気に、よろづよ八首を聞きながら毎日二時間かけて会社に行っているとのことで、現在、ギクシャクした姉兄弟関係はなくなり、陽気づとめに邁進中です。

この三年千日、ふしぎな事ばかりお見せ項いております。

『今は助かる旬』の一言を聞かせて頂き、有難うございました。（M・T）

層安心させて頂くような通り方をして頂きたい。こうしたお話の後、大教会長様は今年の大教会のご本部へのご用，さらに一層のかしものかりもの袋の活用徹底などについて話され、部内教会の今年のつとめに関しては、初席五人、おさづけの理拝戴者五人、修養科生三人、教人登録二人を最低目標に励んで頂きたい。また布教所に関しては初席者三人、おさづけの理拝戴者二人を目標にして頂きたい。この点に関して大教会長様は昨年一年の部内教会を含めた大教会としての働きを振り返られ、修養科生数のみが目標に達しただけであると話され、今年一年の一層の奮起を促された。さらに、百年祭にはおやさとやかた普請に関して、今まで通りの棟数と共に、これまで御守護頂けなかった隅棟の一つを完成したい、そのためには昭和五十五年までに各大教会、部内教会の普請などは終了するようにとのご本部の意向を話され大教会としては、それまでに是非母屋建築（大教会詰所）のご守護を頂きたいと述べられた。

1・26　教祖九十年祭祭典執行（二月十八日まで）

1・26　吸江分教会四代会長赤木由枝任命（三代会長赤木利行出直）
　就任奉告祭：四月十一日

3・21　大教会役員任命
　准承事　中村英夫　上原繁道

5・26　瑞雲分教会三代会長西村道榮任命（二代会長西村精一郎辞任）
　就任奉告祭：六月六日

5・26　油木分教会五代会長黒瀬修弍任命（四代会長川上クショ辞任）
　就任奉告祭：七月五日

5・26　東城分教会五代会長横山道明任命（四代会長横山広志辞任）
　就任奉告祭：八月十五日

5・30　三代会長夫妻アメリカ巡教（八月九日まで）

6・22　婦人会長様、山田愛子、井筒しまへ両先生を迎え笠岡支部総会開催（一五〇〇人）

7・3　高千恵布教所長・岡﨑春枝出直（六七歳）

7・7　三代会長上原繁雄　アメリカ修養会講師を勤める（八月一日まで）

7・26　六甲分教会四代会長山田麗子任命（三代会長山田貢　昭和五十一年四月三日出直）
　就任奉告祭：九月五日

7・31　大教会理事・岡﨑壽夫夫人岡﨑カツ出直（九二歳）

8・21　布教要員実修会開催（二四日まで　五二人参加）

9・26　大恵山分教会移転建築
　旧所在地：岡山県井原市大江町二十三番地
　新所在地：岡山県井原市下稲木町四百八十八番地
　鎮座祭：昭和五十二年十一月十二日
　奉告祭：昭和五十二年十一月十三日

10・26　福芦分教会附属建物増築及内部改造

10・30　教会長対象に布教実修会開催（一一月一日まで）

11・2　教会長対象に布教実修会開催（一一月四日まで）

11・26　阿知分教会三代会長鳥越祥典任命（二代会長鳥越信衛辞任）